

# アイデア商品考え社会を学ぶ

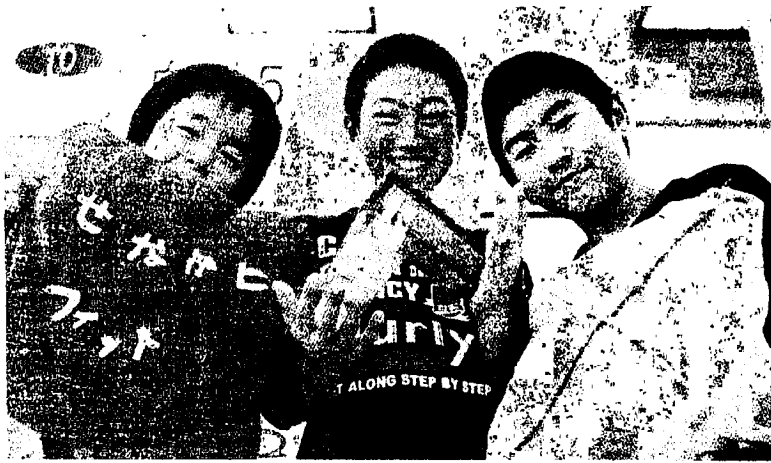
京都市の小学生が、

アイデア商品の開発を通じ、問題を解決する力や、人と言葉をやりとりする力を養う学習を、京都市の二つの小学校が続けて

## 「お年寄りの安全」「生活便利」 7部門に分かれて30近い品物

京都教育大学付属京都小

イベントは京都大 した。起業家教育な どを手がけるNPO 法人「アントレプレ



白川小の五年生が考え、試作した「えんぴつつけずりマシン」(真ん中)と「すの背もたれにあってるクッション」(せなかにフィット ピンタリちゃん)

います。このほど、小学生から大学生まで約四十チームが集まって、商品の発表や販売体験をするイベントに参加。「お年寄りが便利に使えるものを」「より快適な学校生活を送るようになるには」と知恵をしぼった商品の数々をPRしました。(清田 哲)

「お年寄りにやさしい工夫がしてあります」。手書きの子ラシを手に、自分たちが考えた商品を説明する京都教育大学付属京都小の6年生。どちらも京都市左京区の京都大学で

ナレーション開発センター(京都市)が企画。日ごろはインターネット上にパーチャル・カンパニー(あると仮定した会社)を開き、ネットで交流しながら学んでいる参加者らが一

ぬれても一分以内にかわく便利な「乾燥タオル」、すぐに電話に出られなくても代わりに対応してくれるロボット「ベルリン」かけつけろ

## 販売を体験するイベントで商品開発

白川小

白川小(京都市東山区)五年生三十二人は、学校でより楽しく、快適に過ごすために使える商品八点を考え、試作しました。

木の箱をえんぴつつけずり、ペットボトルをけずりかす入れの容器として組み合わせせた「えんぴつつけずりマシン」



「こんなアイデア商品を紹介したのは、京都教育大学付属京都小(京都市北区)の六年生たち。六年い組では三十八人が「ぞくぞくクラブ花まるPrize」

の二つ。机のそばに引っかけられるようにし、けずりかすがたまる。注ぎ口が

## えんぴつつけずりマシンなど 学校を楽しく快適にする8点

「けずりかすを散らかさなようにするにはどうしたらいいかを、みんなで考えました。使用済みのペットボトルを活用するので、リサイクルにつながります」とアピールします。

「せなかにフィットピンタリちゃん」を開発。クッションが背もたれからずれないように、固定するひももつきました。「みんなのアイデアを一つにまとめるのが大変でした。でもおたがいの意見を聞くことで、より良い商品が生まれることが分かってきました」と竹内くんは話していました。

(A)

ステッキング

ステッキングとは、  
折れ曲がったつえで、  
杖の曲がりを直し、  
持ち運びが楽です。

価格  
1200円

つえの中にかさが収まる「ステッキング」を紹介するチラシ

近い商品を考えまし  
イベントにはほか  
のクラスの子もよく

「希望者十六人が参加、谷川麻子さんは、用意したイラスト入りのチラシを手に、「実際にお年寄りの意見も聞き、使う人の立場に立って考えたいです」と、折りたたみ式のつえと、かさを組み合わせた「ステッキング」をPR。かさがいらないときは、つえの中に収めることができ、持ち運びに便利です。

ただ商品を買ってもらうだけでなく、社会貢献もできるようにと話し合い、売り上げの三割をアジアのめくまれない子どもたちに寄付するということにしました。大槻良隆くんは「どうしたらみんなに関心を持ってもらえるようになるか、売り方の工夫も大切だと分かりました」。

アントレプレナーシップ開発センター事務局長の原田紀久子さんは「この学習で身につけた力を、これからの学校、家庭、社会での生活に生かしてほしい」と話していました。